

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 4 部門第 1 区分
 【発行日】平成 19 年 3 月 1 日 (2007.3.1)

【公開番号】特開 2004-239059 (P2004-239059A)
 【公開日】平成 16 年 8 月 26 日 (2004.8.26)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-033
 【出願番号】特願 2004-29603 (P2004-29603)
 【国際特許分類】

E 0 5 C 17/22 (2006.01)

B 6 0 J 5/04 (2006.01)

E 0 5 D 7/10 (2006.01)

【F I】

E 0 5 C 17/22 A

B 6 0 J 5/04 K

E 0 5 D 7/10

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 1 月 11 日 (2007.1.11)
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ドアヒンジ (1 0) で使用される取外し可能ドアチェック装置であって、前記ドアチェック装置は、前記ドアヒンジ (1 0) の開いた位置において第 1 のヒンジ部分 (1 1) および第 2 のヒンジ部分 (1 2) を保持し、前記装置は、

本体 (2 1) と、

前記本体 (2 1) から延び、第 1 の接触表面 (2 4) を有する第 1 の接触要素 (2 2)と、

前記本体 (2 1) から延び、第 2 の接触表面 (2 5) を有する第 2 の接触要素 (2 3)とを備え、

前記装置はさらに前記本体 (2 1) から延びるクリップ要素 (2 6) を含み、前記クリップ要素 (2 6) のうちの 1 つおよび第 1 の接触要素 (2 2) は可撓性弾性材料でできており、前記クリップ要素 (2 6) および前記第 1 の接触表面 (2 4) は前記第 1 のヒンジ部分 (1 1) を握持し、さらに、

第 2 の接触要素 (2 3) の第 2 の接触表面 (2 5) は、前記ドアヒンジ (1 0) の前記開いた位置において、前記第 2 のヒンジ部分 (1 2) と接触するようになることを特徴とする、取外し可能ドアチェック装置。

【請求項 2】

前記本体 (2 1)、前記第 1 の接触要素 (2 2) および前記第 2 の接触要素 (2 3) のうち少なくとも 1 つが可撓性であることにより前記第 1 の接触表面および前記第 2 の接触表面 (2 4 , 2 5) を可動にできることを特徴とする、請求項 1 に記載の取外し可能ドアチェック装置。

【請求項 3】

前記接触表面 (2 4 , 2 5) 同士は互いに平行であることを特徴とする、請求項 1 または 2 に記載の取外し可能ドアチェック装置。

【請求項 4】

前記第 1 の接触表面および前記第 2 の接触表面 (2 4 , 2 5) のうち少なくとも 1 つは凸状の表面を含むことを特徴とする、請求項 1 から 3 のいずれかに記載の取外し可能ドアチェック装置。

【請求項 5】

前記第 2 の接触要素 (2 3) は、前記本体 (2 1) の、前記第 1 の接触要素 (2 2) とは反対の端部から下方に延びることを特徴とする、請求項 1 から 4 のいずれかに記載の取外し可能ドアチェック装置。

【請求項 6】

前記第 2 の接触要素 (2 3) は、前記本体 (2 1) から下方に延びてから再び上方に曲がることを特徴とする、請求項 1 から 5 のいずれかに記載の取外し可能ドアチェック装置。

【請求項 7】

前記第 1 の接触要素 (2 2) は、前記本体 (2 1) から下方に延びることを特徴とする、請求項 1 から 6 のいずれかに記載の取外し可能ドアチェック装置。

【請求項 8】

前記クリップ要素 (2 6) は、前記本体 (2 1) の中間部分から下方に延び、前記中間部分は前記第 1 の接触要素 (2 2) および前記第 2 の接触要素 (2 3) の間に配置されることを特徴とする、請求項 1 から 7 のいずれかに記載の取外し可能ドアチェック装置。

【請求項 9】

前記クリップ要素 (2 6) は屈曲端部 (2 7) を含み、前記屈曲端部 (2 7) は、前記第 1 のヒンジ部分 (1 1) の下側の面まわりに延びて前記ドアチェック装置を前記第 1 のヒンジ部分 (1 1) に固く保持することを特徴とする、請求項 1 から 8 のいずれかに記載の取外し可能ドアチェック装置。

【請求項 10】

ドアヒンジ (1 0) で使用される取外し可能ドアチェック装置であって、前記ドアチェック装置は、前記ドアヒンジ (1 0) の開いた位置において第 1 のヒンジ部分 (1 1) および第 2 のヒンジ部分 (1 2) を保持し、前記装置は、

第 1 の接触要素 (3 2 ; 5 2) と第 1 の接触表面 (3 4 ; 5 4) と第 2 の接触要素 (3 3 ; 5 3) とを有する本体 (3 1 ; 5 1) を含み、前記第 1 の接触要素 (3 2 ; 5 2) および前記第 2 の接触要素 (3 3 ; 5 3) は前記本体 (3 1 ; 5 1) から延び、

前記第 2 の接触要素 (3 3 ; 5 3) は、第 2 の接触表面 (3 5 ; 5 5) を有する第 1 のアーム (3 8 ; 5 8) と、第 3 の接触表面 (4 0 ; 6 0) を有する第 2 のアーム (3 9 ; 5 9) とを含み、前記ドアヒンジ (1 0) の前記開いた位置において前記第 2 の接触表面 (3 5 ; 5 5) および前記第 3 の接触表面 (4 0 ; 6 0) は前記第 2 のヒンジ部分 (1 2) と係合し、

前記第 1 のアーム (3 3 ; 5 3) は前記第 2 のアーム (3 9 ; 5 9) に対して可撓的に変位可能であることを特徴とする、取外し可能ドアチェック装置。

【請求項 11】

前記第 1 の接触要素 (3 2 ; 5 2) は円筒形ピンを含むことを特徴とする、請求項 10 に記載の取外し可能ドアチェック装置。

【請求項 12】

前記ピン (3 2 ; 5 2) は外側フランジ (4 1 ; 6 1) を含むことを特徴とする、請求項 11 に記載の取外し可能ドアチェック装置。

【請求項 13】

前記ピン (3 2 ; 5 2) は、前記フランジ (4 1 ; 6 1) の直径よりも狭い直径を有する端部を含むことを特徴とする、請求項 12 に記載の取外し可能ドアチェック装置。

【請求項 14】

前記第 1 の可撓性アームおよび前記第 2 の可撓性アーム (3 8 , 3 9 ; 5 8 , 5 9) は、前記ピン (3 2 ; 5 2) により規定される軸と垂直の平面上に延びることを特徴とする、請求項 13 に記載の取外し可能ドアチェック装置。

【請求項 15】

ドアヒンジであって、
第 1 のヒンジ部分 (1 1) と、
前記第 1 のヒンジ部分に旋回式に接続された第 2 のヒンジ部分 (1 2) と、
前記ドアヒンジ (1 0) が開いた位置において前記第 1 のヒンジ部分 (1 1) および前
記第 2 のヒンジ部分 (1 2) を保持するよう構成される取外し可能ドアチェック装置とを
備え、
前記ドアチェック装置は、請求項 1 から 9 のいずれかに従って構成されることを特徴と
する、ドアヒンジ。

【請求項 16】

ドアヒンジであって、
第 1 のヒンジ部分 (1 1) と、
前記第 1 のヒンジ部分に旋回式に接続された第 2 のヒンジ部分 (1 2) と、
前記ドアヒンジ (1 0) が開いた位置において前記第 1 のヒンジ部分 (1 1) および前
記第 2 のヒンジ部分 (1 2) を保持するよう構成される取外し可能ドアチェック装置とを
備え、
前記ドアチェック装置は、請求項 10 から 14 のいずれかに従って構成されることを特
徴とする、ドアヒンジ。